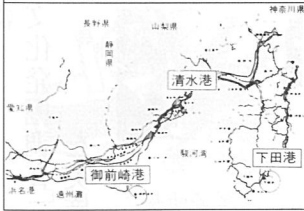


わたしたちが運ぶのは未来です
運輸省

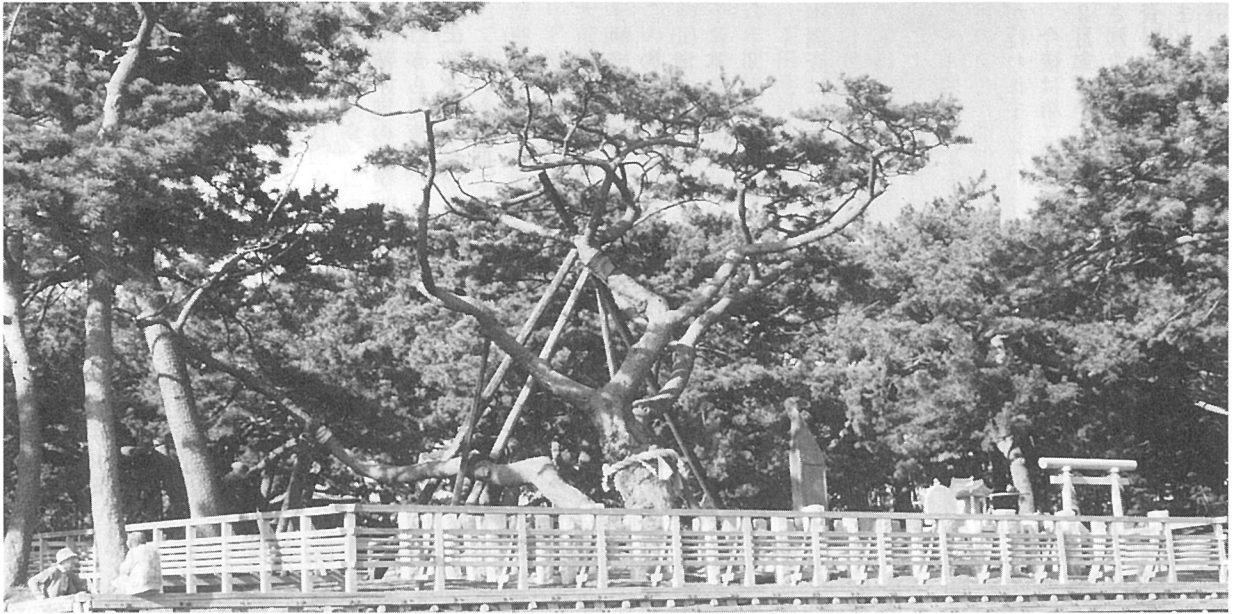


みなと しみず

発行所

第五港湾建設局
清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号
TEL 清水<0543>52-4146(代)



羽衣の松

(撮影 石川労務厚生係長)

年頭にあたって

所長 尾崎 正明



あけましておめでとうございます。

我々を取りまく経済社会の状況が大きく変化する中で、港湾行政に携わるものは、これらの多様な変化やニーズを的確にとらえ、柔軟かつ積極的な対応が必要であります。

また、今年には現在の港湾整備五カ年計画の折り返し点にもあたり、なお一層の着実な港湾の整備が求められており、新たな年を迎え、当事務所としても、常にこれらのことを念頭に置き業務に取り組みたいと考えています。

さて、管内の港湾に目を向けますと、第一に国際貿易港の港湾計画の早期の策定であります。中断していた清水港整備構想調査委員会の再開に向けて昨年来、漁業関係者を中心に鋭意調整がなされ、そのめどが果たしたことは新年にとって明るいニュースであります。この委員会での検討が

円滑に進み、次のステップである港湾計画が早期に策定され、新しい事業に着手できるよう最大限の努力をしたいと思っております。さらに、清水港の歴史や文化に着目して現在調査を進めておりますが、これらの成果についても、「うるおい」や「にぎわい」のある港づくりに役立てたいと考えています。

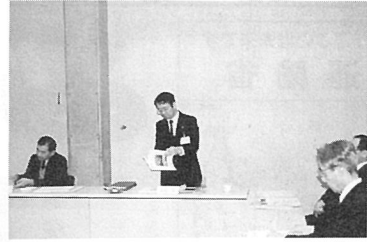
第二に御前崎港については地域の核として着実に整備が進んでいますが、次の時代の御前崎港の姿についても検討がなされており、大いに期待されているところで

第三に下田港ですが、現在整備中の防波堤は、いずれ新型の構造となりますが、これを機会に下田のような観光資源の豊かな地域との調和のあり方について、思い切った工夫をしたいと考えています。

さらに、沼津港など県内の各港のウォーターフロントづくりにも大いに協力したいと考えています。

本年も各位の御健勝を祈念するとともに、清水港工事事務所に対する益々の御支援御鞭撻をお願いし、年頭のごあいさつとさせていただきます。

清水港 「港湾文化発掘調査」 を実施



調査主旨説明をする
尾崎所長

清水港は一九九九年には開港百周年を迎えるに至るほど国際貿易港として長い歴史を有しており、県民、市民の清水港に対する親しみも大きなものがあります。また清水港にちなんだ歴史的・文化的施設も数多くみられ、日本三大美港にも数えられるほどの景観にも優れております。最近では豪華客船クイーンエリザベスII世号が寄港するなど、港の新しい利用が図られていくほか21世紀の高速貨物船「テクノスパーライナー」の寄港地としても注目されており、新しい時代の要請に対応するための準備が着々と進められております。

その存在を一般に広く認識してもらうことにより清水港の文化と歴史を継承して、21世紀に向けた清水港の姿を検討するため平成4年11月に「港湾文化発掘調査」を清水港湾博物館（フェルケール博物館）に委託し、次の5項目を柱に調査を実施しております。

- (一) 清水港の歴史を文化の面から見直す。
- (二) 清水港における港湾文化施設を発掘する。
- (三) 客船誘致を推進するためのソフト・ハードについて検討する。
- (四) テクノスパーライナーの受皿について検討する。
- (五) 清水港の活性化対策の基本的方向について検討する。

本調査は東海大学海洋学部の酒匂教授を座長に迎えて各界の有識者10名による座談会形式により昨年12月15日フェルケール博物館において第一回の会合が開催され意見交換が行われました。

今後は第二回目の座談会を2月末に予定しており、提案された意見及び収集した関連資料をもとに今年度中に取りまとめを行う予定です。

(工務課 長瀬 和則)

静岡県のみなとシリーズ(4)

大井川港

大井川町

県中部、大井川河口の左岸に位置し、西は大井川を境に榛原郡吉田町・島田市、北は焼津市・藤枝市に接し、東は駿河湾に面した面積二二・一km²、人口二・二万人の昭和三十年大井川左岸三カ村が合併してできた新しい町です。町は平野特有の散村集落の形態をなし、大井川の洪水から屋敷を守る船型屋敷が各所にみられます。

主要産業はトマト・キュウリ・イチゴなどのハウス園芸、大井川の伏流水を利用したウナギの養殖、駿河湾特産のサクラエビ、一方工業では大井川港の石油・ガスを基盤にしたコンビナート群をはじめ大井川家具団地、日本AMP、CBSレコード等の大企業の進出に見られる製造業です。人口当たりの工業出荷額では県下トップクラスとなっております。

沿革

大井川（県中部を流れる一級河川、赤石山脈の南斜面に源を発し、静岡県井川からは遠江・駿河の国境をなしつつ南流し、金谷・島田間で大井川平野に出てその南西端で駿河湾に注ぐ。当県内のみに終始する河川としては流長一六〇・二km、流域面積一二八〇km²と最大規模を誇る）左岸河口に掘り込んで築造した地方港湾。昭和三十七年指定で、大井川町が港湾管理者となっています。

昭和三十七年大井川町は豊富な砂利資源の搬出および利用等を目的とした港湾整備に着手、数次にわたる投資によって、現在では最大利用船型五千トンD/Wクラスをはじめとする公共岸壁一六バース、専用岸壁四バースが整備され県内の中枢港湾に成長、物流基地の要衝として県中西部の経済発展に大きく寄与しています。

平成三年における取扱貨物量は清水港一九二八万トン、田子の浦港七八五万トン、に次いで本港三七万トンとなっています。取扱貨物において圧倒的であった骨材は減少、かわって石油・ガスの伸びが目立っています。また由比港と並んでサクラエビの漁業基地でもあります。



大井川港

大井川港MTP

大井川港マリントウシッププロジェクトは当初、周辺の石油貯蔵基地を移転して立地する方向で昭和六十二〜六十三年度二カ年にわたり五建および大井川町で事業化調査を完了しているものでありますが、その後の移転交渉が難航し計画が中断した型になっていきます。

構想では、マリーナを核にクラブハウス、コンドミニアム、ホテル、ショッピングセンターなど、第三セクター方式で建設するもので大井川港北側の外港部分に予定、民間のレジャー施設を含めた総事業費は約四百億円となっております。

藤守大井八幡宮と田遊び

平安時代初期の延暦年間大井川そのものを神として「大井宮」が創祀され、鎌倉時代の建久年中、八幡宮を合祀し



大井川町の地図



藤守大井八幡宮

寄稿 基地誕生のあゆみ

国土総合建設(株)静岡営業所
元清水港工事事務所 次長

大塚 終 平



たといわれる大井川町藤守の古札「大井八幡宮」で毎年三月十七日の夜行われる「田遊び」は国指定の重要無形民俗文化財として広く知られています。

田遊びとは本来稲づくりの過程を芸能化して演ずるものでありますが、藤守の場合海付きという関係もあって五穀豊穡のみでなく豊漁をも祈願する「鯛釣り」という演目が加わっているのが興味深いところでもあります。
(ウオーター・フロント窓口)



の進捗が図れること
③基地としては県内外の既施設を有効活用すれば十分可能であること

知恵で策定した計画であり、再検討を重ねても最初の計画に戻ってしまい、最終的には原案で承認されておりますが、このことに伴い一年近い期間が経過しております。

問題は事務所計画が再検討となったことにより、環境庁箱根事務所では下田港内には作業基地を建設しないと理解されていたことです。

環境庁協議の前段において「下田港には基地建設せず」のメモを突きつけられ、このことは本庁にも伝達されており、環境庁業務に対する基本的問題であるとして事前協議そのものが門前払いされ、暗い迷路に突き落とされた状態になっていました。

このことに対し、連日作戦会議を開き打開策を検討しましたが、なかなか妙案が浮かばず、苦慮した結果「下田港内には基地建設せず」としたことは不本意ではあります。認められた上で、下田港内以外には基地建設が出来ない理由を具体的に説明し「下田港内には基地建設せず」としたことを正式に取り消し、新たに「下田港内に基地建設する」

ことの了解を得るべく環境庁の箱根管理事務所へ断崖から飛び降りる思いで訪問しました。予想に違わず所長、科長さんには挨拶することすら叶わず引き揚げなければならませんでした。

しかし、相手側が挨拶を受けないという態度であれば、我々も火の玉となって石にかじりついても意地を持って理解を得て、計画を進めなければならぬという不動心が出ると不思議なもので、相手側を説き伏せることができる自信みたいなものが沸き上がってくるように感じられたものでした。

その後、箱根山に対し「お百度参り」を開始し二カ月程度経過して所長、科長さんに説明を受けていただきました。が、所長さんは、説明の内容は受け入れた訳ではないが、「下田港内に基地建設せず」と「下田港に基地建設する」ことの問題は分離して話を受けるという回答をだして下さりました。この時点で基地計画は成功するという感じを強く抱いたものでした。成立する」という感じを抱いた理由は、「建設せず」「建設する」は相反する内容であり、本来分離できるものではないはずですが、分離するとしたのは所長

さんの配慮であると思われるからです。
(次号へつづく)

下田工場新造船の船名決まる

今年度建設が認められた下田工場の監督測量船が、昨年八月七日に形原造船(株)と契約三月十九日の完成に向けて現在建造中であります。

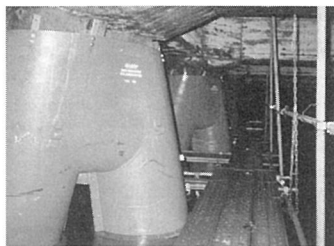
同船が下田港の外港防波堤建設において活躍するにふさわしい船名を、職員から募集したところ四十九種六十四件の応募船名がありました。

これを受け事務所船舶名決定委員会において検討、数点に絞り込んだ候補名が近隣の船舶と同名でないこと等を調査、最終的に「しもだ」に決定されました。

モルタルライニング 工法現場見学

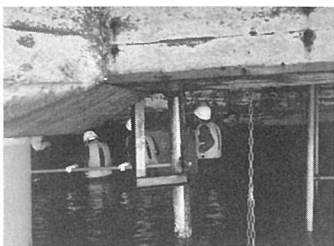
清水港の興津第二埠頭では、鋼管杭の腐食部分を補修する工事が行われている。

この岸壁は昭和四十四年四十五年にかけて建設され、約二十二年が経過しており、杭の海上部分の腐食が著しい。岸壁の構造は棧橋式で、前面は直杭、後ろ側は組杭(斜杭)



FRPカバーを
取り付けた組杭

の断面となっている。
組杭は、斜杭頭部が接して
いるため、取り付けカバーが
複雑な形状となり、「組杭一
体型のFRPカバーを用いた
モルタルライニング工法」と
いう、全国でも直轄工事で
京浜港につぐ二回目という希
な工法が採用されている。
初めて見る同工法の勉強の
意味から、所内による見学会
が企画された。十二月二十
日、二十二日の両日に分け、
所長以下二十三人が参加した。
十二月二十二日快晴、無風、
気温十六度の好天に恵まれ、
事務所から船で約十五分、興
津埠頭に着いた。
現場は干潮時ではあったが、
岸壁（スラブ）と海面との間
は一・二mくらい。現場代理
人から工事施工状況の説明を
受けたあと、各人胴長に着替
えて、鋼管杭に取り付けられ
た足場（水面下約五十cm）を
頼りに、岸壁下へもぐり込ん
だ。



足場を渡る見学者

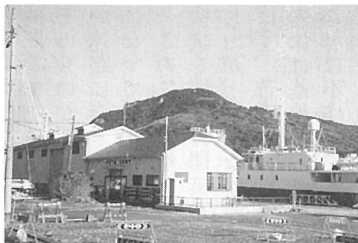
冬の海は透明度がよく、小
魚が群れをなす中、水中のカ
バー取り付け等施工状態もはっ
きり見ることができた。
腐食していた鋼管杭も、錆
を落としカバーが取り付けら
れ元気を取り戻した。
(注) FRP+モルタルラ
イニング工法
錆を落とし鋼管杭に少し
大きめのFRP製カバーを取
り付け、鋼管杭とカバーの間
間にモルタルコンクリートを
充填することで腐食の進行を
遮断する工法。
(藤田 信博)

工場だより

— 下田工場 —

下田待合所新築

下田工場庁舎の向側で鶴島
岸壁に位置していた神新汽船
の下田待合所が、昨年十二月
下旬、隣地へ移転新築されま



した。
周辺は、県による公園化計
画があり、これに伴い老朽化
が目立ってきた待合所の建て
替えに踏み切られました。



御前崎灯台と太平洋

元旦は天気も良く、海岸沿
いの道路や灯台付近は人や車
でごったがえしました。
(中津川哲司)

OB野球大会

恒例となった二建・五建O
B野球大会も十四と数を重ね、
前夜の懇親会も一年ぶりに再
会した諸兄と交友を暖め盛大
に行われた。野球もさること

ながら前夜祭の必要性は何物
にも替えがたいものであると
思うものである。さて当日十
二月五日は暖かい好環境の地
三保東海大学松前球場という
これ又素晴らしいグラウンドで
の好プレイの応酬？結果は一
勝一敗、(13回大会五建2勝)、
これで通算成績五建の12勝11
敗3分とやっと逆転し面目を
保ったところ。シニアエイ
ジとは言え随所にハッスルプ
レイが見られ、怪我人もなく
成功裡に終わったことを嬉し
く思うと共に、本大会にご理
解、ご協力を頂いた諸先輩、
又は清水港の皆様方に厚く御
礼申し上げ、来る第15回記念
大会が盛大に迎えられるこ
とを祈念するものである。
実行委員長 山田 秀夫

清水港の動き

(12月)
7、8日 管内工事報告会

15日 清水港港湾文化発掘活
用調査委員会 (清水)

17日 静清庵地域振興方策調
査懇談会 (静岡)

4日 御用始式

14日 第3回清水港整備構想
調査委員会・幹事会 (静岡)

(1月)

15日 清水港港湾文化発掘活
用調査委員会 (清水)

17日 静清庵地域振興方策調
査懇談会 (静岡)

4日 御用始式

14日 第3回清水港整備構想
調査委員会・幹事会 (静岡)

(2月)

22日 第3回清水港整備構想
調査委員会 (静岡)

19日 沼津MTP幹事会

1日 沼津MTP委員会 (沼津)

8日 御前崎港整備構想調査
委員会・幹事会 (静岡)

16日 御前崎港整備構想調査
委員会 (静岡)

23日 清水港港湾文化発掘活
用調査委員会・第2回 (清水)

初日の出の名所

— 御前崎工場 —

御前崎海岸は初日の出の名
所として名高く、毎年五万人
程の人数があります。霊峰富
士を仰ぎ見ながら、太平洋か
ら昇る朝日はまさに絶景です。